



学校だより



墨田区立第三吾嬬小学校
校長 川中子登志雄
令和4年9月1日
9月号

自分で考えて、行動するチャンスを与える

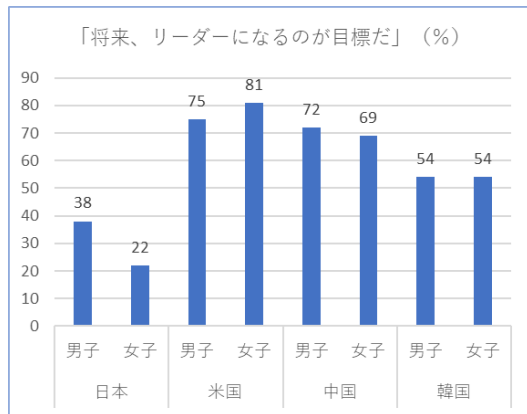
校長 川中子登志雄

新型コロナウイルス感染症感染拡大の第7波まっただ中であつた今年の夏休みでしたが、国や都による行動規制もなかったこともあり、3年ぶりにいろいろな体験ができたのではないのでしょうか。長い夏休みも終わり、前期後半が今日よりスタートしました。9月からどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度が始まって5ヶ月。私はこの夏休み期間中に、前期前半を振り返って、今年度の重点目標とした「自立 自ら学び、考え、行動する人」の育成ー児童の主体性の育成ーのために何ができるかを考えていました。そんなとき、いつも楽しみにしている日本教育新聞の連載コラム、教育社会学者・舞田敏彦氏の「数字が語る日本の教育」に気になるデータを見つけました。



集会室前の立派なヒマワリ (8/26)



同紙8月1日号では「リーダー志向」についての国際比較が考察されていました。データは、国立青少年教育振興機構「コロナ禍を経験した高校生の生活と意識に関する調査」(令和4年)で、「将来、リーダーになるのが目標だ」に対する肯定的な回答がどれだけあつたかの国際比較ですが、その結果は左グラフの通りです。日本の高校生は他国の高校生と比較して、著しく低く、更に性差が大きいという特徴が見られます。実は、このような傾向は、日本の子どもの自己肯定感や幸福度の調査結果とも一致しています。なぜ、他国の子どもたちと比較して、日本の子どもたちはポジティブになれないのでしょうか。

私は、それが、すべて主体性の欠如に起因していると考えています。ここで言う「主体性」、「主体的である」というのは、簡単に言えば「自分で考えて、行動する」、「その行動に自ら責任をもつ」という態度です。

人生は選択です。私たちはこれまで、子どもたちにそのような機会を与えてきたでしょうか。ご家庭での様子を振り返ってみてください。お子さんに考えさせていますか。「～しなさい。」ではなく、「あなたは どうしたい?」「これとこれとどっちがいい?」と、子ども自身に考えさせ、選択させているでしょうか。そして、「どうしてそう思ったの?」と、子ども自身の意思を明確にさせているでしょうか。自分で決める。自分でやりたいと思ったことをやる。そういう経験が子どもたちの自己肯定感を育み、幸福度を高めていきます。

実は、これは、これまでの学校教育の大いなる反省点でもあるわけです。私たちは家庭でも学校でも、子どもたちにそのようなチャンスを与えずにきてしまいました。私たち自身も経験してきていないことですので、意識して行わない限り、現状を変えることはできないでしょう。学校では、すべての教育活動を通して、子どもたちに「自らまなび、考え、行動する」練習をさせていきたいと考えています。

残暑の厳しい9月になるとの予報が出ています。感染の状況も心配なところです。皆様、夏の疲れも出てくる時期ですので、くれぐれもご自愛ください。

〈行事の様子〉

委員会活動の様子

4月から4ヶ月間、5・6年生の子供たちは、委員会活動を頑張っています。どの委員会も、学校生活を豊かにするために常時活動や、月によっては楽しい企画を考えて、子供たち自身が計画、運営をしています。委員会活動は全校の子供たちが豊かに、健やかに学校生活を送るためには、なくてはならない活動です。5・6年生が責任感をもって実行し、1年生から4年生はそんな高学年の姿を見て、憧れを抱いたり、社会参画の意識を学んだりすることができます。やがて中学校、高校へと進んでいく6年生にとって、「自分たちの学校生活は自分たちでつくる」という意識を芽生えさせ、委員会活動がそのためのよい学びの機会になるよう、指導していきたいと思います。



〈学年の様子〉

5年生「那須甲子移動教室について」

6月22日～24日の3日間、福島県西郷村にある国立那須甲子青少年自然の家にて、那須甲子移動教室を実施しました。天気心配がある中での移動教室でしたが、大きく崩れることはなく、全行程を予定通り行うことができました。

<1日目>保護者の方々に見送られ、学校を出発しました。バスの中では、班長が考えたレクで楽しく遊び、3時間ほどかけて国立那須甲子青少年自然の家に着きました。昼食を食べ、入室した後、殺生石見学・つつじ吊り橋体験に行きました。殺生石見学では、硫黄の匂いと殺生石の大きさに驚いて



いる児童が多くいました。つつじ吊り橋では、初めて吊り橋を渡る児童も多く、思っていた以上に揺れる橋に怖がる児童もいました。夜はキャンプファイヤーを行い、レク係が中心となって司会進行、出し物を行い、楽しく交流を深めることができました。

<2日目>那須甲子での朝を迎え、全員で朝会を行いました。午前は焼板作りを行い、煙に目が痛くなりながらも、思い思いの飾り付けをして完成させることができました。午後は沢歩きハイキングに行きました。3時間かけて勾配のある山道や沢を歩き、協力しながら歩ききることができました。児童の顔には疲労の色が見えましたが、達成感を味わっている児童が多くいました。夜はナイトハイキングを行いました。電灯のない森の中を、活動班でランタン一つ持って目的地まで歩きました。途中で予期せぬハプニングもありましたが、全員無事に目的地まで辿り着くことができました。



<3日目>最終日は野外炊事を行い、カレーライスを作りました。家庭科で「茹でる」しか行っていない児童には、いささか難しい様子ではありましたが、自分たちで作ったカレーライスをおいしそうに食べる姿が印象的でした。準備・役割分担・片付けと、活動班で協力して行うことができました。国立那須甲子青少年自然の家の職員の方々に別れを告げ、栃木県那須町のお菓子の城でお土産を買いました。帰りのバスは、DVDを真剣に観る人、疲れて寝ている人と、行きのバスとは違って変わって静かな帰路となりました。



3日間を通して、子供たちは「自分で判断し行動すること」「友達と協力して過ごすこと」「健康に気を付けて生活すること」を学ぶことができました。東京

では経験することのできない大自然の中での生活は、これからの生活にも大きな影響を与える経験になったのではないのでしょうか。

那須甲子移動教室を実施するにあたり、保護者の皆様には多くのご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。今後とも、5年生の健やかな成長のために、変わらぬご支援・ご協力のほど、よろしく願いいたします。



<お知らせ>

キャリア教育特別授業の講師募集について

10月15日(土)2校時、今年で5回目となるキャリア教育特別授業を実施する予定です。5・6年生の総合的な学習の時間に、様々な職業の方をゲストティーチャーとしてお招きし、子供たちに仕事についてのお話や、社会人としての心構えなどについてお話をいただきたいと思っております。

9月2日(金)に、改めて詳細のお知らせをCOCOOで配信させていただきます。コロナウイルス感染拡大防止に努めた実施方法を考えておりますので、ぜひ講師としてのご参加のご検討をお願いいたします。

【これまでのご参加いただいた皆様のご職業】

令和2年度

「建設業」「調理師(民生・児童委員)」「ディベロッパ」「警察官(向島警察)」「調理師」「保育士」

令和3年度

「建設業」「企画職」「医師」「営業職」「ITエンジニア」「看護師・助産師」「自動車整備士」「保育士」

「カスタマーセンター」「幼稚園教諭」

【今年度、ぜひお話を聞きたい職業】

医師、美容師、理髪師、職人(ものづくり)、テレビ局関係、コンピュータSE、YouTuber、IT関係、運輸業、作家、芸術家、アスリート、スポーツトレーナーなど

【これまでのキャリア教育特別授業の様子(本校ホームページより)】

<http://www.sumida.ed.jp/sanazumasho/shokai/careereducation2020.html>

9月17日土曜日 第3回 校長「語らいサロン」のご案内

9月の土曜学校公開日、17日の9時から、今年度第3回目のサロンを開催します。今回のテーマは、保護者の皆様から寄せられたご意見を参考に「中学校への進学について」としました。特に高学年の保護者の皆様は、小学校卒業後の進路についてお考えになっている方も少なくないと思います。以前、中学入試・受験のことについてテーマにとりあげたことがあります。今回は「中学校に行くと小学校の時と何が変わる?」「勉強は?」「部活は?」「進路選択は?」などについて、この春三吾小を卒業した中学1年生の皆さんの話を聞いたり、中学校の校長先生をお呼びしてお話を伺ったりしたいと思っています。

サロンはどなたでもご参加できます。お友達と誘い合って、お気軽にご参加ください。

【日 時】 9月17日(土) 9:00~9:50

【場 所】 本校集会室(1階)

【テーマ】 「中学校への進学について」

【講 師】 ゲスト・コメンテーター 墨田区立吾嬬第二中学校長・駒田るみ子先生

【その他】 令和3年度卒業生にインタビュー動画「中学校生活について」を上映します。



☆☆新しい事務職員が着任します☆☆



9月1日、事務室の事務補助職員としてM.S.さんが着任しました。月、火、木の3日間勤務しています。どうぞよろしくお願いいたします。



夏休み水泳教室の様子

